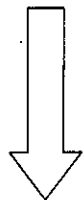


来館者数・収支等についての考え方の変遷

- 平成 6 年 土地取得
- 平成 7 年 勤労体験プラザ（仮称）
基本計画策定時



【勤労体験プラザ（仮称）基本計画における考え方】（集客数は株式会社三菱総合研究所に委託して調査）※

- 延べ床面積→67,600㎡を計画（当時は宿泊施設を設置して研修を実施すること等も想定。）。
- 年間集客予想数→75万人～110万人と予想。

社会科見学生徒数約 20 万人、体験学習を行う修学旅行生徒数約 20 万人、その他教員・企業研修参加者等約 5 万人と推計（団体客計 45 万人）、個人客をその同数と推計して、全体で 90 万人。その他、施設の性格（博物館系か、アミューズメント系か）により、集客数の幅を持たせて、75 万人～110 万人としたもの。

- 入場料→体験事業については有料とすることも検討。ただし、ライブラリ等、図書館的機能を持つ事業については、その公的性格上入場料は徴収しないことが適当。

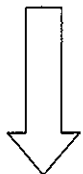
- 平成 12 年 建設着工時



- 延べ床面積 35,800㎡で入札公告（必要な設備・施設規模等を精査したところ、基本計画から延べ床面積が半減。）

- 入場料→類似施設の例を勘案して徴収。ただし、職業能力開発施策という観点で、収支均衡は考えず。※

- 平成 15 年 オープン時



【雇用・能力開発機構第 1 期中期目標における考え方】

- 各事業のサービス利用者の延べ数 40 万人以上（実績：H15 度 33 万人、H16 度 49 万人、H17 度 52 万人、H18 度 51 万人）
- 収支に関する目標はなし。（入場料等については、周辺類似施設の入場料等を勘案した上で決定。）
（実績：運営費交付金に係る支出額（人件費除く）H15 度 19 億、H16 度 15 億、H17 度 14 億、H18 度 12 億
自己収入 H15 度 0.5 億、H16 度 1.1 億、H17 度 1.1 億、H18 度 1.4 億）

- 平成 19 年 改革実行計画策定時
（アクションプラン）

【改革実行計画策定時の考え方】

- サービス利用者数増と収支の改善を目的とし、以下の目標を設定。
 - ・ 各事業のサービス利用者延べ人数 52 万人（H17 度）→57 万人（H21 度）
 - ・ 自己収入額 1. 1 億円（H17 度）→2. 2 億円（H21 度）
 - ・ 運営費交付金に係る支出額（人件費除く）13.8 億円（H17 度）→9 億円台（H21 度）
 - ・ 人件費 3. 8 億円（42 人）（H17 度）→2. 6 億円（33 人）（H21 度）

※当時の担当者に聞き取り調査の上、作成。

（印）